

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

(1) 基本計画「2 生活・環境 (1) 都市基盤」の審議

委員 国道452号の未開通区間が12.9kmとのことだが、工事の情報など現状を教えてください。

市 現在、保安林解除の手續と環境調査を行っているところであり、平成21年度については、芦別側の盤の沢道路で、道路改良工事300mを行う予定である。

また、美瑛側の五稜道路では、道路改良工事700mを行う予定である。

併せて、工専用道路延長約1.1kmの設置と、未開通12.9km区間における橋りょうの詳細設計を行う予定となっている。

委員 関連して、道道「芦別～美瑛線」と、道道「富良野～美唄線」について、数十年前から工事しているが、私の持っている資料によると橋りょうが29箇所、トンネル2箇所と膨大な工事が未だに終わっていない状況である。

これに加えて国道452号と、これらの道路はどのくらいの効果やメリットがあるのか。

最初の謳い文句では、道東・道北圏と芦別を結び、石狩圏との流通を期待できるとのことであったが、高速道路が普及している中で実際に必要かどうか、冬の管理や国の財政を考えた場合に、今でも造る必要があるのか疑問に思う。

それにしても工事期間が長すぎて、いつまでやっているのか、市に入っている情報があれば教えてください。

市 「芦別～美瑛線」については、ほとんどが砂利でかなり地滑りも多く、なかなか工事が進んでいない状況にある。

道でも優先順位をつけながら事業に取り組んでいく方針で、市としても積極的に要望していく考えである。

「富良野～美唄線」については、特区により道の方に工事移管されたが、何年までの工事になるのか不明な状態であるため、情報が入り次第お知らせしたい。

国道452号についても、環境調査でかなりの年数を費やしているが、工事期間などの詳細についても不明な部分が多いため、情報が入り次第お知らせしたい。

市 国道452号開通によるメリットとしては、北海道第2の都市である旭川市と物流を含めた取引関係が活発化されると予想される。

もう1つは旭川空港と直結し、時間も40分程度で旭川に着くことが可能になる。

旭川空港自体の機能拡大も図られており、芦別の地域振興を図る観点から、旭川空港との連携による企業誘致にも大きな弾みなる。

加えて、北海道観光においては、富良野・美瑛が観光地として脚光を浴びており国道452号の開通により、芦別と富良野・美瑛のリンクができ、トライアングルのような形で、新たな観光ルートが形成されることも考えられる。

このようないくつかの観点で、芦別の地域振興を図るために極めて重要な路線であり、市長を先頭に国に対して1日も早い開通を要望している現状である。

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

委員 旭川空港を利用している芦別市民のデータはあるのだろうか、大切な問題である。千歳空港でも、そんなに時間をかけずに行ける時代であり、今、旭川空港は黒字ではないはずである。

共通の問題や自然保護の問題とかを見ると、非常に大きな自然破壊があるように感じられる。

あれだけ機械と金をかけて地滑り対策をやっているとのことだが、そのような金をもっと他のところに使えないのかと思う。

北海道各地を見てみても、観光開発やスキー場などもそうだが、今になって無駄になっているものが多すぎる。

この前、然別に行ってきたが、昨年秋から然別峡管野温泉は閉鎖しており、閉鎖になる寸前に温泉までの道路が全線舗装された。そのような先読みのできない無駄がありとあらゆるところで出ている。

富良野～美瑛線を一市民として見せてもらおうと思っても見せてもらえない。

市民のわからないところで何が起きているのかわからない。

芦別～美瑛線は、いたるところにブルーシートがかぶせられており、地滑り地帯が連続している地形で誰が見てもわかる。

そこに何であの道路が必要なのか、違う金のかけ方があると思う。

委員 通信の部分で携帯の不感地帯とあるが、市内のどこの地域を言っているのか。

市 国道452号線の三段滝過ぎから三笠に抜けるまでの10kmくらいが不感地帯となっている。

また、道道135号富良野～美瑛線の富良野側から15km程度が不感地帯となっている。

委員 交通体系の鉄道ダイヤの関係だが、根室本線の将来性はどうか。

ローカル路線の今後の動向が不安である。

旭川～富良野間は、旭山動物園効果で無くなることはないと思うが、滝川～富良野間が分断されるようなことはないのだろうか。

市根室本線の本数が減少したが、現状でも上り11本、下り12本の運行がある。

人口減少に伴い、JRの収入減による経営問題などが発生してくれば、路線数の見直しなどの話は浮上すると思うが、なんとか現状本数を確保していただくよう、JRに要望していきたい。

委員 情報化の部分だが、新たな分譲住宅などに、ある程度の高速回線を引かなければ、人は入ってこないと思う。また、本市の地デジ普及の状況はどのようになっているのか。

その点も情報化の今後重要な部分になってくると思う。

市 分譲住宅とは、どこの分譲住宅を指すのか。

委員 以前に頼城に住んでいた時に、自分達で近隣の人に声かけを行い、ADSLを引

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

いた経緯がある。

その時の業者の話だと、西芦別までなら引けるようなことを言われ、西芦別は市の方でも協力していて、頼城はダメなのかという疑問がふと浮かんだ。

市 高速通信化というのは、芦別だけではなく全国的な問題になっている。

都市圏では問題ないと思うが、このような辺地・過疎地、特に芦別は行政面積が広く、集落が点在していることから、その集落までケーブルを引くのに設備投資がかなりかかる。

NTT東日本の協力を得なければならないと思うが、民間も費用が莫大にかかり、かと言って行政ができるのかと言うと財政的にもなかなか難しい現状である。

国の交付金などを活用しながら普及させたいとは思っているが、なかなか事業に合致するような良い条件の交付金がない。

芦別全地域に高速通信回線が普及するよう、NTT東日本に要請していきたいと考えるが、なかなか難航している状態である。

また、地デジの関係だが、あくまで国策であるため今回の総合計画の中には地デジ普及の表記はしていない。

国からも市に対し普及促進の協力を依頼されていることから、普及啓発を行っていききたい。

ある程度の地域では、ほぼ視聴可能であるが、新城、野花南、西芦別、頼城の一部地域が難視聴となっている。

難視聴地域については、共聴組合を作り各地域で地デジ普及に向け対応していただいているが、そこや国と連携し地デジ普及に努めていきたい。

委員 推進すべき施策の「②交通網の充実」2行目終わりから、「高齢者や障がい者に配慮した歩車道の整備を行います。」とあるが、実際どのような配慮をするのか、わからないので教えていただきたい。

市 道路の部分については、下水道の整備とともに、既存の道路を切り貼りしている状態であり、経年劣化や水の浸入により凸凹が生じていることから、現在、計画的に路盤からやり直すなどの道路整備を行っている。

また、歩道についても段差や凹凸などがあり、市の高齢化を考えた場合、つまづきの原因になる舗装の面の整備や、歩道から車道への段差について、バリアフリー化を併せて行っている。

委員 推進すべき施策「④通信・情報化の推進」3行目で携帯電話の不感地帯とあるが、市内の不感地帯はいつ解消されるのか。

市 携帯会社の方で需要と供給の状態を見ながら、不感地帯の解消に向け取り組んでいるようであるが、関連する情報が入ってこないため、解消時期について、市は把握していない。

委員 2、3年前からおかしいと感じているが、この福祉センターや市民会館には、た

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

くさんの高齢者のかたが来ると思うが、市役所あたりからこの両施設に向かう道路(歩道)の除雪が非常に悪いように感じる。冬になると歩道がなくなってしまって歩行者は危険な状態である。

これだけ公共の施設がある芦別の中心地で、あの除雪は悪すぎるので解消していただきたい。

市 市役所から市立病院に向かう道路は国道となっている。

この路線は歩道も狭いため、車道の除雪により歩道は隠れてしまう現状である。

市としては毎回、除雪とともに排雪をしていただきたいと、国道の管理者である滝川道路事務所をお願いしている。

引き続き、冬期間において、歩行者が安心して歩ける道路維持管理を強く要望していく。

委員 交通網の充実「市民の役割」に「②環境美化里親制度に参加すること」とあるが、これは交通網分野とどのような関係があるのか教えていただきたい。

先ほど山岡委員が国道452号の必要性について触れていたが、私は旭川へのアクセス道路となる国道452号が開通することを願って、芦別に移住してきた経緯があるが、未だに夢が叶っていないため、早期開通に向けて取り組んでいただきたい。

また、交通体系の充実の関係で、現在、JRは単線運転だと思うが、旭川、滝川、芦別、富良野の運行を山の手線のような循環方式にしてみることを、JRに要望してみてもどうか。

ご存知だと思うが、線路・道路を走れるDMV(デュアルモードビークル)が開発されており、駅のポイントに縛られず実現性がある乗り物だと思う。

ただ単にダイヤの確保するのではなく、発想を変えた取組も必要ではないか。

加えて、これは行政ではなく民間が考えることだと思うが、タクシーの乗り合い制を考えても良いと思う。

基本的にタクシーは乗り合いをやっていないが、ある程度許可を取れば可能である。ぜひ、その後押しを行政でやっていただきたい。

以前、私が住んでいたところでは、通勤時間帯での乗り合いタクシーをやっていて、バスでは渋滞に巻き込まれるが、タクシーだと裏道も走れるので非常に便利だった。

そういった発想は芦別の中で必要じゃないかと思い、そのような制度を市民が理解し、大いに利用することも考えていかなければならないと思う。ただバスだとか電車だとかの既成概念だけでは、なかなか先が見えてこないと思う。

最後に、通信・情報化の推進「市民の役割」で「①インターネット環境の整備を図ること」とあるが、市民は何をすれば良いのか。インフラ整備は、市民ができることじゃないと思うが、教えていただきたい。

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

市 交通網の充実「市民の役割」の「②環境美化里親制度に参加すること」の記載の意味だが、平成17年からこの制度をスタートしており、市民主体のボランティア清掃による取組があり、交通網の部分については、歩道や歩行者専用道路の清掃に係る市民参加のボランティアのことを指している。

市 通信・情報化の推進「市民の役割」で「①インターネット環境の整備を図ること」であるが、さまざまな情報がインターネット1つで拾える時代であって、事情はあると思うが、可能な限りパソコンを家庭で整備していただきたい。このような思いから記載の表現になってしまったが、適切な表現ではないと思うため検討していきたい。

委員 パソコンの設置を促すということだが、芦別市内のパソコン普及率は何%くらいか把握しているのか。

市 正直、市民レベルでどれくらいの持ち合わせているかという情報は掴んでいない。

委員 交通網の充実の中で、橋りょうの長寿命化修繕計画により、適正な橋りょう維持・管理を行っていくとあるが、どのような計画なのか教えていただきたい。

市 市内に数多くある橋については、今まで経年経過・劣化の状況を判断し、単独で架け換えや修繕を行ってきた。先の見通しがつきづらいつまらぬ時代の中で、補助金・交付金を出す国においても、それぞれの自治体で持っている橋りょうの点検をし、何年後にどういった状況が訪れるのかを見据えて、財政見通しを含めた将来的な計画を立てるよう指示されている状況である。

本市としても、市民生活に支障をきたすことのないよう、長寿命化修繕計画を策定し、国の交付金等を活用しながら、計画的な橋りょうの架け換え・修繕に取り組んでいきたい。

委員 今の説明では、橋りょうの長寿命化修繕の計画とのことだが、橋りょうの耐震化は行わないのか。

災害時に橋りょうの崩壊などがあつては、安心・安全なまちづくりはできない。

長寿命化が良いのか耐震化が良いのか考えた方が良い。

市 耐震化の部分で踏まえた長寿命化ということでご理解願いたい。

委員 旭川空港の利用率やパソコンの普及率については、ぜひ、アンケートなどで集計し把握した方が良いと思う。

(2) 基本計画「2 生活・環境 (2) 生活環境」の審議

委員 住宅環境の充実でユニバーサルデザイン、⑥公園・緑化の充実で環境美化里親制度(アダプトプログラム)とあるが、意味を教えてください。

市 ユニバーサルデザインについてだが、従来ではバリアフリーという言葉が使われ

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

ていたが、バリアフリーは、今ある障がい・障壁を取り除いて使いやすいようにするもの、健常者が使っても問題ないが、高齢者・障がい者が使った場合に使いづらい部分を取り去ることをバリアフリーと言っていた。

ユニバーサルデザインは、健常者、高齢者、障がい者、性別に関係なく、誰もが使いやすいデザイン・構造を最初から作っていくもので、使い方を間違っても大きな損害にならないものをユニバーサルデザインという。

具体的には、電灯のスイッチを、指先で押す小さなスイッチから、手の平で押すような大きなスイッチにしたり、設備器具で使い方がわからないような難しいものではなく、形を見るとそれを右に回す、左に回す、引っ張るといった、誰もが見て理解できるわかりやすい器具を採用することがユニバーサルデザインである。

アダプトプログラムについては、平成17年度から本市で取り組んでおり、主にボランティア活動による清掃をお願いしている。市民との協働・役割分担の中で、参加できる団体を呼びかけたところ、市内の10団体から公園や遊歩道のゴミ拾い程度ならできるとの申し出があり、ゴミ拾いにかかる火バサミや軍手、ゴミ袋等を市の方から支給し、労力を団体に依頼しているものである。

委員 ②環境衛生の充実で親子一斉クリーン作戦の記載があり、子ども達の参加者は思ったよりも少ないが、それなりの成果はあると思うので、年1回の実施から年2回の実施にしてはどうか。

また、同じく②環境衛生の充実で、地域団体の自主的な清掃活動に対して、ボランティアごみ袋を配布するとなっているが、個人で清掃ボランティアをする場合も同様に考えているのか。

市 親子一斉クリーン作戦については、教育委員会と育成会主体の事業であり、思いとしては、回数を多くし、青少年の健全育成に寄与することができると思うが、教育委員会、育成会の方でどの程度できるのかという部分もあるため、教育委員会の方にお話をさせていただく。

ボランティアごみ袋については、町内会などの団体での清掃活動に対して提供させていただいているが、ボランティアとしてやっていただけるということであれば、個人であっても提供している。

ただし、安易に何でもかんでも混ぜて入れ、ごみを出されても困るので、こちらで用意した用紙に、必要事項を記入し区別していただくこととなる。

まずは、環境衛生係の方へご相談いただきたい。

委員 この素案の「地域団体の～」の部分に、「個人」も記載した方が良いのではないか。

市 表現については検討させていただく。

委員 ごみについて、最近モラルの低下が気になっており、缶やビンのポイ捨てや市立病院・スーパーの駐車場にタバコの吸殻、更には食べ物まで捨てられており、とてもじゃないが一般ごみとして回収できない状態である。

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

今、ごみ袋の配布の話があったが、個人または地域に配布していただき、自分の地域は自分達で清掃することを基本に位置付け、また、1年に1回というのはあってないようなものなので、市民への意識付けのためにも、ごみ袋の配布と清掃活動を年に何回か実施すべきである。

市 各団体が年に何回か清掃活動を行う場合には、ボランティア用ごみ袋を渡しやすい部分はあるが、個人のかたの場合、普段出しているごみと混在してしまうことが懸念される。

もし個人でボランティア清掃を行う場合には、環境衛生係で話を伺ってからごみ袋を渡しているため、一度、窓口でお話をしていただきたい。

委員 環境衛生の方でお話をすれば、個人でもボランティアごみ袋を支給していただけるということか。

市 はい。

委員 公営住宅の建替えについてだが、人口が減っている現状で、建替え前と同規模の住宅の建設を行うのではなく、今後の人口規模にあった建替えを行うべきである。

また、点在する集落を集約することは考えているのか。

市 現在、溪水町にあけぼの団地、新あけぼの団地を併せて建替えを行っており、従前の戸数から人口減を踏まえた戸数の減少を行っている。また、上芦別町のさつき団地においても、122戸を70戸に減少し建替えている。今後の人口減少の見極めたうえで、移転者、新規入居者数を把握し、必要最小限の戸数で建替えを行っている。

いずれにしても、集約を行いながら建替えているので、今後、戸数が増えることはない。

建替えにあたっては、風呂がない、トイレが水洗ではない、部屋の面積が狭いなど、居住水準が低いところを優先的に建替えている。

また、改良住宅については、昭和49年からの建設で712戸あるが、築30年以上が経過しており、住宅を見ても老朽化が著しく、新規入居者がいない現状や人口減少の影響もあり、現在では空き家が40%以上もある。

住民の集約をかけると言っても、財政的な部分もあるため、市単独ではなく、国や道の補助金・交付金を見据えながら、良好な住宅ストックの形成が図れるのか、検討している現状である。

委員 どうせ建替えるなら市の中心部に建替えた方が利便性も上がり良いのではないか。

市 コンパクトなまちづくりという部分で、買い物、通院などの利便性は上がるが、現状、それぞれの地域で団地、商店、自治会などが構成されており、利便性だけでは集約はできなく、集約するなら町内会との協議も必要であるが、現在のところ、大きな集落の集約は考えていない。

近隣の団地をまとめ上げ、どちらかの団地に集約し建替える手法で留まっている。

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

人口減少が進む中で、中心地に集約するコンパクトなまちづくりが必要になってくると思うが、それについては引き続き検討させていただく。

委員 この総合計画に基づき、移住・定住やさまざま取組を行っていくと思うが、この素案には、本市の快適な住環境とあるが、住宅だけでなく下水道関連で言うと、整備区域から外れた地区は合併浄化槽を設置するなどがある。

環境整備の良いところに移住を薦めるのであれば、風呂は無い、水洗でもない、部屋が狭い「公営住宅」をどうするのか。

合併浄化槽の設置やコンパクトなまちづくりも含めて、その地区をどうするのかということ考えた住環境の整備を図らなければならない。

委員 ①自然環境の保全において、環境意識啓発活動を推進するとあるが、「市民と行政の役割」にはごみ問題しか書かれていないのが気になる。環境意識の啓発はごみ問題だけではないと思う。

同じく、「行政の役割」の「②新エネルギーの具体的な利活用の可能性を検討する」の部分について、暖房なのか、発電なのか、車関係なのかもう少し具体的に知りたい。

⑥公園・緑化の充実において花いっぱい運動の展開とあるが、市内の公園にある公園のみで展開し、郊外の公園ではやらないものなのか。

道端の花は刈り取って、マスの中だけに花を咲かそうというものなのか。

赤平ではルピナスが野原に生えていて綺麗だと思うが、あのような取組をやってみてはどうか。

市 自然環境という分野は幅広いため、ごみ問題からエコ意識まで、まちをキレイにしていこうという幅広い形で啓発するという意味合いがある。

生活環境の身近な部分で、廃棄物などのごみ問題が中心となっているが、自然環境から環境衛生に繋がる事項として記載させていただいた。

新エネルギーの部分については、国の補助を使いながら資源量の調査を行おうとするもので、木質の部分については既に検討しているが、芦別地域全体でどのような資源、エネルギーの賦存量があるのかを調査し、その中でエネルギーとして使っていける、芦別にふさわしいものを模索していこうと考えている。

現段階では具体的に示すことはできないが、その利活用方法も含めて検討するものである。

市 花いっぱい運動については、市民の皆さんにボランティアでお願いしているもので、その主体は町内会、老人クラブ、ボランティアグループ、学校などから地区・地域から公的な部分や教材として使いたいと言ったところに、必要な株数を提供し、清掃も含めた美化活動と一貫させたボランティア活動となっている。

その対象は市内の中心地だけではなく、郊外も含めた取組となっている。

委員 自然環境の部分については、林業の部分もあるため、次回も関連が出てくるもの

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

と思うが、「CO2 ゼロ自治区」など会社の中でCO2を削減して売っている取組もあるので、これだけ森林があればそのような活用もでき、それも新たな資源に繋がるのかなと思う。

委員 先ほど牧野委員から話のあった赤平のルピナスだが、あの花はニュージーランドで国中に広がった時に、多くの観光客が来たが、その後、繁殖力が非常に強く、国費を莫大にかけて全て抜き取った事例がある。

今、日本で一番問題になっているのは道端にあるタンポポであるが、あれを活用しているまちはあるだろうか。

また、この前、道東の方に行ってきたが、道端に菜の花にそっくりな花が咲いていて、皆は菜の花だと思いキレイキレイと言っていたが、あれは悪質な外来種で、あのようなものが山にもたくさん入ってきており、従来の日本の植生が危険に犯されている現状である。

危険な外来種を駆除しなければならない、特にヤドメソウを取り除かなければならない。うちの自宅横の公園も4～5種類の外来種が生えており、被害にあっている現状である。

キレイだからといって安易に何でも植えれば良いというものではない。

(3) 基本計画「2 生活・環境 (3) 安心・安全な生活」の審議

委員 ①消防・防災対策の「行政の役割」で、「市民に対し防災情報を積極的に提供すること」とあるが、例えば北朝鮮のミサイルが芦別の上空を通る場合に、市では、どのように防災情報を提供できるのか。

市 各地区にスピーカーを設置し、無線を使って情報発信する手法もあるが、芦別の場合、広大な行政面積のため、隅から隅まで設置するとなると莫大な経費がかかってしまう。

現状できる対応としては、市の職員があらゆる公用車を使って、直接各地区に周知することくらいである。

委員 防犯対策、防災対策、消費者対策で、「関係団体と連携」や「消費者知識の向上のため学習の提供」とあるが、各団体との連携の現状はどうなっているのか。

市 防犯団体については、防犯協会、芦別地区保護司会、更生保護女性会、人権擁護委員会、暴力追放運動推進協議会などの団体と連携を図っている。

消費者関係については、芦別には消費者団体がいないため、生活学校が担っている部分があり、特に子どもや女性が地域課題・生活課題を改善するために活動している。

市 防災については、地域防災計画に基づいて、その構成組織として自衛隊、警察、

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

道の各施設などがある。

具体的な連携体制は情報交換をするくらいで、仮に大きな災害が起こった場合の連携体制を確認している程度である。

委員 災害に直接携わるのは団体ではなく地域の住民だが、団体と住民との関連、行政と住民との関連を教えていただきたい。

市 防犯も防災もそうだが、市民と団体と市が一体になって明るい犯罪のない地域づくり、災害に強いまちづくりをしていこうというものである。

委員 ④交通安全・防犯対策に「交通安全意識と交通マナーの向上を図り」とあるが、水下商店から今のバイパスに出るY字の道路があるが、自転車通学のほとんどの高校生は、そこを横断する時に後ろを確認しないで渡り、非常に危険である。

市から高校に言ってくれということではないが、交通マナーの向上を考えると、小学生くらいからそのような交通マナーの意識付けはしても良いと感じた。

最近では音楽を聴きながら自転車に乗っている人もいる。とても危険である。

委員 芦別小学校では自転車通学を認めていないが、自転車通学を認めている学校は管内でも多い。

おそらく市内でも芦別中学校あたりは自転車通学を認めていると思うが、どこの学校でも交通事故に対しては非常に危機感を持っており、年に2回は交通安全に対する全校・学年指導を行っているが、市内の危険箇所・地区までの個別指導はできないが、安全教育については鋭意努力していることは理解いただきたい。

委員 交通安全のためにはスピード違反の取り締まりも必要だと思うが、車を運転する人のモラルが一番重要と考える。

携帯でメールや話をしながら、テレビを見ながら、食事をしながらという運転者が非常に多い。

スピード違反だけでなく、その部分の取り締まりを増やした方が良いと思う。

委員 ③除排雪対策に、「現在の除排雪水準を維持します。」とあるが、近年の除排雪はひどいものがある。

除雪車のタイヤが浮くほど深く削りすぎて、春になったらアスファルトがガタガタになっている。

業者にしてみたら搬出量を増やす予算がないのかと思うが、将来的な舗装の維持を考えたら、もう少し雪を残す除排雪をした方が良いのではないかと。

真冬でも舗装が出ている除雪をしているので、もう少し道路に優しい除雪をしていただきたい。

④交通安全では、自転車に対する交通マナーの冊子はあるのか。

例えば、三角山の踏み切りで止まる自転車はない。高齢者に多いが自分の得意の方しか確認しない人、交差点、自動車との接近時に徐行をしない人など、いつかドライバーが被害者になるようなシーンが多いことから、警察とまではいかないが、

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

市の交通課あたりで事例を活用した自転車安全運転の冊子などを発行できないものか。

委員 除雪の基準も教えてほしい。

市 除雪については、午前3時の時点で判断し、10cm以上の積雪があれば出動を指示、午前4時にはそれぞれの路線に各機械が到達して除雪を開始、市民の皆さんが活動し始める7時から7時半までには作業を終える形になっている。

3時の段階で積雪が10cmに満たない場合でも、降雪状況を見極め、以後10cm積もるだろうという時に出動している。

また、前日に雪が積もり、車で踏みつけられて路面が凸凹になっている場合にも、わだち・スリップの原因にもなるため早朝除雪を行っている。

路面の雪の残し方だが、幹線道路については、車がある程度のスピードで走るため、路面に雪を残すと、日中の気温の上昇や日照により、わだちやスリップの原因になり事故の原因になることから、できるだけ幹線道路については、路面を削るように指示をしている。

また、生活道路については、幹線道路のように削りこみはしていない。積もった雪を道路脇に寄せる程度であるが、暖気の時には湿った重たい雪になることから、路面の状況が悪くならない程度に雪を残し除雪している。

委員 例えば、排雪で街路樹と街路樹の間に積もった雪を、人手で出して排雪しているが、あそこまでやる必要はないのではないか。

どこまで実態を把握しているのか今の回答ではわからないが、ガタガタになるくらい路面は相当削られている。

市 街路樹については、雪を残してしまうと、交通における見通しが利かなくなってしまう、また、雪を残すと市民のかたが、またその場所に雪を積んでも良いという考えで、雪を出してしまうという悪循環が発生する。

キレイな部分を雪が多く降るまで維持しようとする意識付けにもなるため、排雪の時には雪の山が残らないように指示している。

委員 除排雪については、財政が厳しい状況だが今の水準を維持していただきたい。

そのためには、効率性というものも多少は考えなければならないのではないか。

市 はい。ありがとうございます。

委員 私は除雪を実際にやる立場であり、市の指示を受けて行っているが、削りすぎという部分については、運転技術も要することから、今後指導していきたい。

ただし、この部分については、道路に優しい除雪ではなく、人に優しい除雪をやるようとしていることをご理解いただきたい。

今日の意見は参考にさせていただく。

委員 除雪をやる立場とやってもらう立場で全然感覚は違っているが、丁寧すぎるくらいな除雪だと思い、もう少し臨機応変にやっても良いのではないかと思う。

第3回芦別市総合計画審議会記録

日時 平成21年6月4日(木)午後6時～

場所 総合福祉センターふれあいホール

しっかり除雪してもらっているから何も言えないが、やらなくても良い場所もキレイになっている。

滝川やその他を見ても芦別の除雪は本当にマメである。

ただ、家の前に大量の雪を置いていかれるのは永遠の課題であるが、市民も半分くらいは理解してあげるというマナーも必要ではないだろうか。

全てキレイにするのではなく、臨機応変にやってもらった方が経費も削減できていて良い。

委員 以前から丁寧にやりすぎだという声も聞こえてくるが、長年やってきた中で、キレイにやった方が批判も少ないのは確かであって、もっとキレイにやってくれという声は多い。

やる方としては、削りすぎいう部分も気を付けてやりたい。

コストの面に関してだが、除雪を全て市がやるというのは、これからの時代厳しいものがある。

自分達のできる部分は自分達でやっていかないといけない。市民の皆さんの協力が必要だと思う。

市 先ほどの自転車の冊子の件については、検討させていただきたい。

< 閉 会 >